

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 遠別町 (都道府県:北海道)

1. 当該地域の情報 (令和3年2月現在)

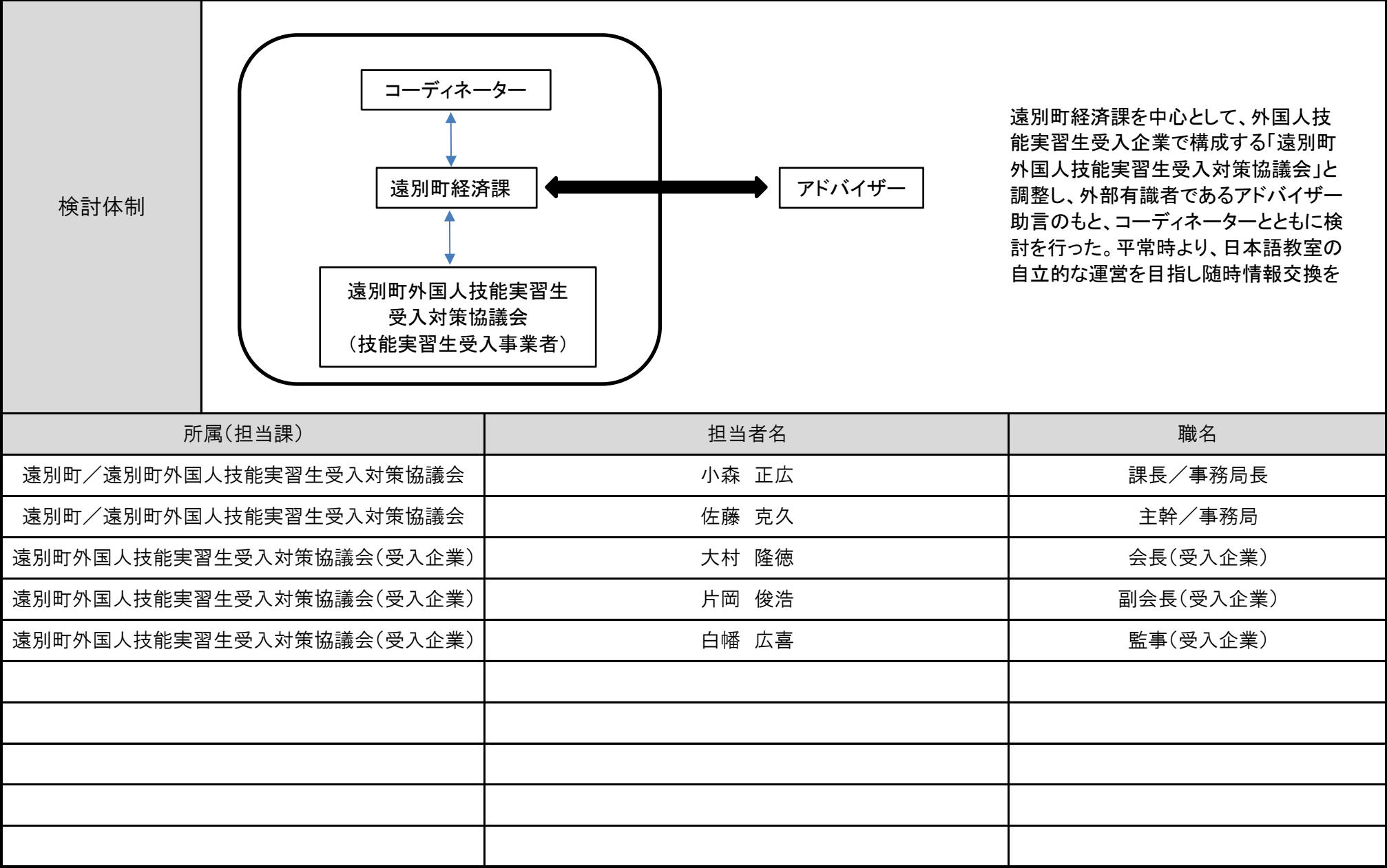
地域の課題	遠別町は北海道の北部に位置し、農業、漁業、林業などの一次産業が軸となっている。数年前から水産業を中心に技能実習生を受入れており、地域の人手不足や高齢化に対して良い効果が出ている。空き家となった住宅を技能実習生を受入れる事業者が再活用したり、町のイベントに技能実習生が参加し地域の活性化に繋がっている。遠別町では今後も多くの外国人を受入れていく予定であり、外国人に選ばれる町になるためにも外国人の受入や共生に向けて体制を整えていく必要がある。
在住外国人数 外国人比率	2.6%(遠別町人口 2,539人 外国人 66人)
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】ベトナム53人 中国6人 カンボジア4人 フィリピン1人 アメリカ1人 シンガポール1人 【在留資格】技能実習1号16人 技能実習2号34人 技能実習3号7人 永住者7人 配偶者等2人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生1号・2号が多く、永住者については横ばいの状況。今後も技能実習生は増加すると予想される。
在住外国人の 日本語教育の現状	町内では日本語教室は行われておらず、受入事業者では技能実習生の日本語レベルは段々と下がってきていると受け止めており、課題だと捉えている。技能実習生にアンケートをとったところ、多くの実習生自身も「日本語能力を身に付けたい」という回答が多数あった。町としては、日本語教育実施の経験やノウハウがなく、実現していないのが現状である。他の外国人については日本での生活が長く日本語レベルが高いものが大半であり日本語教室のニーズがないのが現状である。

2. 事業の内容

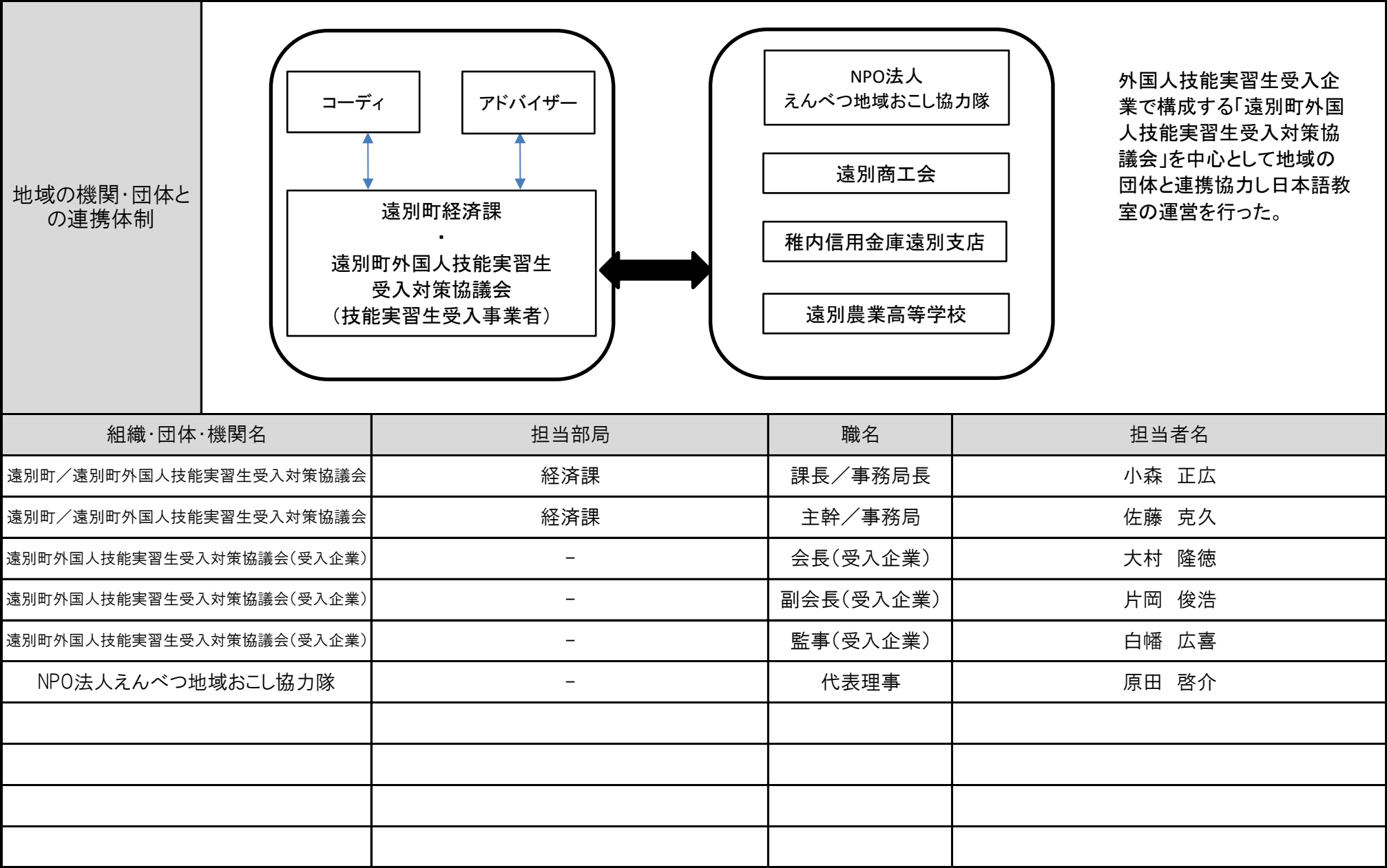
本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	町に在住する外国人は地域に欠かせない存在になっており、今後もより多くの外国人を受入れていく予定である。特に66人の外国人のうち技能実習生が57名と8割を超えており、技能実習生を含めた外国人に対する取組が求められている。 令和2年2月に遠別町外国人技能実習生受入対策協議会が設立され、外国人の受入と共生に向けて活動していくこととなった。令和元年11月に行ったアンケート結果では47名の回答のうち「日本語能力を身に付けたい」が30名、「生活する上で困っていることは言語である」42名と日本語教育のニーズが高いことから、日本語教室を開設し外国人が住みやすい環境づくりを目的とする。			
事業の概要	【ニーズ調査】 在住外国人(技能実習生)を対象にアンケート調査 【外国人技能実習生の交流会】 ベトナム人、カンボジア人技能実習生の交流会を3回開催 【日本語教室の試行及び実施】 えんべつ日本語教室「かけはし」の試行及び実施 【その他】 外国人住民向けの「お知らせ掲示板の設置」 北海道庁主催の学習者支援者養成講座への参加			
事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)				
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	佐藤 克久	遠別町役場	経済課主幹	日本語教室検討・運営・管理
	原田 啓介	NPO法人えんべつ地域おこし協力隊	代表理事	日本語教室検討・運営・管理
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	井上 洋	一般財団法人ダイバーシティ研究所	参与	継続・新規(1年目)
	菊池 哲佳	仙台多文化共生センター	センター長	継続・新規(1年目)
	阿部 仁美	一般社団法人北海道日本語センター	理事	継続・新規(1年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月			
令和2年 5月	・日本語教室開設に向けての検討会議 (遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第1回役員会)		
令和2年 6月	・スタートアッププログラム オンライン説明会 ・事業計画の作成、検討(アドバイザーと電子メール打合せ) ・第1回日本語交流事業の開催 ・日本語教室開設に向けたアンケート協議 (遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第2回役員会)	・日本語交流事業サポート ・地域団体との調整(商工会)	・事業計画について協議(電子メール)
令和2年 7月	・日本語教室開設に向けたアンケート実施(50名回答) ・第2回日本語交流事業の開催 ・〈札幌〉ランゲージセンター視察(日本語学校)及び日本語教師実践育成講座視察(札幌市)	・アンケート内容の検討及び結果について ・日本語交流事業サポート ・〈札幌〉ランゲージセンター視察等 ・地域団体との調整(商工会)	・阿部アドバイザー(札幌市)打合せ
令和2年 8月	・日本語教室開設に向けたアンケート結果について (遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第3回役員会) ・第3回日本語交流事業 ・えんべつ日本語教室「かけはし」試行開催	・日本語教室試行の打合せ ・日本語教室試行の運営サポート ・地域団体との調整(稚内信金・商工会)	・アンケート調査結果及び日本語教室開設に向けて(電子メール)
令和2年 9月	・えんべつ日本語教室「かけはし」開催 ・日本語教室の開催状況について (遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第4回役員会)	・日本語教室の運営サポート ・地域団体との調整(稚内信金・農業高校)	
令和2年 10月	・えんべつ日本語教室「かけはし」開催	・地域団体との調整(稚内信金・農業高校)	・日本語教室開設状況について(電子メール)
令和2年 11月	・スタートアッププログラム実施団体情報交換会参加(オンライン) ・日本語教室の開催状況及びお知らせ掲示板設置について (遠別町外国人技能実習生受入対策協議会第5回役員会) ・えんべつ日本語教室「かけはし」開催 (以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止) ・外国人技能実習生お知らせ掲示板の設置	・日本語教室運営について打合せ ・地域団体との調整(商工会)	・日本語教室開設状況について(電子メール)
令和2年 12月	・日本語教室空白地域解消推進協議会参加(オンライン)		・日本語教室開設状況について(電子メール)
令和3年 1月			
令和3年 2月		・本年度の事業振返りと来年度に向けた打合せ ・コーディネーター情報交換会参加(オンライン)	・本年度の事業振返りと来年度に向けて(電子メール)
令和3年 3月			

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称			えんべつ日本語教室「かけはし」				
外国人参加者について			[国籍]ベトナム36名, カンボジア4名 [属性]技能実習生が大半			参加者数 (内 外国人数)	受講者220名 支援者30名 (学習支援者20名、サポーター10名)
開催時間数			総時間36.2時間		内訳 1.5時間 × 18回 + 1時間 × 7回 + 1.1時間 × 2回		
目標			「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標に沿い、地域で暮らす外国人の日常生活における日本語会話能力のレベルアップを図る。				
実施内容							
月	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
8月 試行	26日(水)18:00～19:30 27日(木)18:00～19:30 28日(金)10:00～11:00 29日(土)14:00～15:30 30日(日)14:00～15:30	7	生涯学習センター	50	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・からだの部位や内臓の名称 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ・警察署からの諸連絡(SNS注意喚起、自転車走行)	学習支援者3名
9月 ①	5日(土)14:00～15:30 9日(水)18:00～19:30 10日(木)18:00～19:30 13日(日)14:00～15:30	6	生涯学習センター	37	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・日本語の会話 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ・警察署からの諸連絡(SNS注意喚起、自転車走行)	学習支援者3名 サポーター3名 (天塩警察署)
9月 ②	18日(金)10:00～11:00 23日(水)18:00～19:30 24日(木)18:00～19:30 26日(土)14:00～15:30	5.5	生涯学習センター	40	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・日本語の会話 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ※遠別農業高校インターンシップ生も参加	学習支援者3名
10月 ①	2日(金)10:00～11:00 9日(金)10:00～11:00 14日(水)18:00～19:30 15日(木)18:00～19:30 17日(土)14:00～15:30	6.5	生涯学習センター	33	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・日本語の会話 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ※稚内信用金庫 ゲーム・取材など	学習支援者3名 サポーター1名 (稚内信用金庫)
10月 ②	23日(金)10:00～11:00 28日(水)18:00～19:30 29日(木)18:00～19:30 31日(土)14:00～15:30	5.5	生涯学習センター	22	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・日本語の会話 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ※遠別農業高校生徒とのコミュニケーション	学習支援者3名 サポーター6名 (遠別農業高校)
11月 ①	6日(金)10:00～11:00 7日(土)14:00～15:00 11日(水)18:00～19:30 12日(木)18:00～19:10	4.7	生涯学習センター	34	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・日本語の会話 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ・イラストまちがいさがし	学習支援者3名
11月 ②	20日(金)10:00～11:00	1	生涯学習センター	4	日常会話と言葉の問題 など	・参加者の近況報告(楽しかったこと、嫌なこと など) ・日本語の会話 ・日本語の言葉の問題(テスト的に) ・イラストまちがいさがし	学習支援者2名
	※ 以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止						

【主な活動】



9月① ・警察署からの諸連絡
(SNS注意喚起、自転車走行)
・天塩警察署職員の注意を聞く学習者



9月② 遠別農業高校インターンシップ生参加
・学習者とともに教室参加後、記念撮影



10月② 遠別農業高校生徒とのコミュニケーション
・農業高校生徒からの質問に答える学習者

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	学習支援に係るボランティアスタッフの発掘事業が実施できず、事務局(役場)主体で手探りながら日本語教室を開設した。継続的な運営のためにも学習支援者の発掘育成が急務であり、次年度以降、学習支援者の発掘育成に取り組んでいく。
--------------------	---

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語交流事業	令和2年6月～8月 (全3回)	町内の外国人住民の交流、さらには日本語レベルの把握を図るため、ビンゴゲームや日本語による自己紹介を行い、交流を深めた。 【内容】(全3回、1回1時間) 第1回(6/16 42名参加) ビンゴゲーム・自己紹介 第2回(7/30 50名参加) グループで今後の交流について検討 第3回(8/21 4名参加) ビンゴゲーム、自己紹介
お知らせ掲示板の設置	令和2年11月～	平常時、新聞やテレビなどを見ない外国人住民が大半を占め、地方では町内商店の売り出し情報がアナログであることなどから掲示板を設置した。また、住民の皆様へ本取組を周知することにより、地域内での外国人技能実習生をはじめとする外国人住民の存在、関わりを身近に感じてもらうことができた。 (日本語教室を開催している生涯学習センターに設置)
日本語学習支援者養成講座への参加(北海道主催)	令和2年10月～11月	日本語教室での指導者養成の一環として、北海道が主催する「日本語学習支援者養成講座」にコーディネーターが2名参加した。
日本語教室開設に向けたアンケート	令和2年7月	遠別町外国人技能実習生受入対策協議会において、受入事業者を通じ技能実習生50名を対象に日本語教室開設に向けたアンケートを行った。(50名全員より回答を得た)

【主な活動】



日本語交流事業(第1回)
・ビンゴゲームを楽しむ実習生



日本語交流事業(第2回)
・今後の交流についてグループ発表する様子



お知らせ掲示板の設置
・町内の売り出しチラシや外国語での周知

5. 今年度事業全体について

進捗状況	・1年目でニーズ(アンケート)調査から日本語教室開催まで実施できた。 ・大きな要因として受入企業で組織する団体があり、連絡等に協力してもらえたため、実施に向けてスピード感をもって対応することができた。 ただ、学習支援者などの人材発掘・育成が進んでいない状況。
事業推進にあたり問題点と対応策	・日本語教室開催にあたり学習者のレベルに差がある。 ・日常生活における会話能力のレベルアップを図ることを目的としているが、学習者のニーズも高く対応できないこともある。 ・教室参加者数も多いことから、指導者(学習支援者)の増加が図られるよう対応していきたい。
成果	①ニーズ調査 ・外国人50名から回答があり、全員が日本語教室の開催を希望していた。 ②えんべつ日本語教室「かけはし」の開催 ・参加者数が多いので、月に8回(2週間で4回)に分けて実施。参加者の居場所づくりや楽しく運営することを心掛けて開催した。
地域の関係者との連携による効果	①遠別農業高校生徒の交流では「高校生が栽培した遠別の芋をふかして技能実習生に食べてもらい」、食について学ぶこともできた。 ②稚内信用金庫様は日本語教室参加者への景品提供や自社情報誌に本取組みを掲載していただき情報発信が図られた。 ③遠別商工会は日本語教室開催場所の施設管理者であり、お知らせ掲示板の「町内商店の売り出しチラシ」など掲載してもらっている。 ④遠別町外国人技能実習生受入対策協議会に日本語教室開設に向け積極的に協力をいただいた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(5H) ②体制整備のための調整(5H) ③人材育成のための調整(1H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(10H) ⑤教材作成に向けた調整(5H) ⑥その他(5H) (具体的な内容:関係団体との連絡調整)
アドバイザーの主な助言	・ボランティアなどの協力者を募る取組を同時に展開する。 ・現在の取組など記録の整理を行いPDCAサイクルにつなげる。 ・外国人掲示板の取組など「温度(熱意)が伝われば」相手に伝わり、取組の好循環が生まれる。 ・今後の日本語学習ではオンラインでの取組が課題となるので実験(試験)も必要。
今後の課題	①新型コロナウイルス感染症の影響で日本語教室の開催が不安定となっているが、学習者の意識が高く、学習者のレベルに応じた丁寧な教室内容が求められている。 ②日本語教室を継続していくために指導者(学習支援者)の発掘育成への取組が必要である。 ③地域に日本語教室の存在を幅広く知ってもらう取組が必要である。 ④アドバイザーとの連絡については、今後オンライン会議で実施するよう検討が必要である。
今後の予定	①学習者の声を尊重した日本語教室の運営を行う(学習者へのアンケート調査) ②日本語教室の公開授業やお知らせ掲示板の周知を行い、地域内へ活動内容をPRする。 ③住民と外国者との交流会を企画する。 ④学習支援者の発掘、育成につながる取組を検討し展開する。

本件担当 ： 遠別町役場経済課商工観光係